

平成30年 日本建築士会連合会賞

審査総評

第46回日本建築士会連合会会員作品展は、全国19建築士会より89点の応募があり、建築種別は住宅（共同住宅を含む）が41点（応募数全体の46.1%）、施設（公共施設、学校、医療、寺社仏閣等）が40点（44.9%）であった。4月16日一次審査会（書類審査）が審査委員全員が出席のもと行われた。その結果、平成30年日本建築士会連合会賞候補として、以下の21作品が現地審査対象作品に選ばれた。

「波板の家」「リマニット・モーター・藤田展示場」「HAWKSベースボールパーク筑後」「岩国のアトリエ」「北光の家」「真言宗光林寺 位牌堂」「新居浜市総合文化施設・美術館あかがねミュージアム」「On the water」「KITAYON」「earth and horizon」「時間の倉庫——日本庄商業銀行煉瓦倉庫」「eagle woods house」「高岡信用金庫本店」「新発田市新庁舎」「京都産業大学 サギタリウス館」「宝ホールディングス歴史記念館」「風のプロムナード——ニフコYRPエントランス棟」「光洞の家」「洗足池の家／MONOLITH」「千葉・版築の家」「YKK80ビル」、以上である。

現地審査は1作品2名以上の編成で、6月4日から7月14日までの12日間で行われた。7月23日審査委員全員が出席のもと、最終審査が行われた。現地審査を行った各作品の審査講評を基に議論を行い、優秀賞5作品、奨励賞8作品、特別賞2作品が選ばれた。各作品の講評は現地審査を行った審査委員に委ねるが、特別賞を受賞した2作品については委員長として講評を総括することにした。

「洗足池の家／MONOLITH」は、設計者が「建築文化のさらなる熟成と発展のため在るべき邸宅建築の姿を希求する作品をつくる」と宣言しているように、デザインはもとより3つの素材へと還元し

た使われ方、精緻なディテール、施工の精度など極めて優れており、優秀賞を凌駕する作品で、時間の経過が重ねられていくことで、さらなる価値を内在する建築へと昇華していく建築として特別賞を授与することとした。

また、同じく特別賞を授与した「千葉・版築の家」は、土や杉、竹などの地場の自然素材を風土資源と捉え、地盤の職人と設計者が一体となって環境共生型で版築壁のある「現代の民家」をつくる強い想いが込められた作品である。この建物は、土間からなる平屋建の住居で、縄文的な地ベタを強く意識した空間構成となっている。敷地内の土を石灰で固め、竹の骨を入れ、高さ2m、幅0.7mと1.2mの版築壁をつくっている。その上に地場の杉丸太を木組みし、多面体の屋根を載せている。版築振動試験、版築材料圧縮試験、竹筋引張試験を東京大学の研究所で行っており、阪神淡路の地震波の2倍の揺れに版築壁の試験体が耐えるという結果が得られている。市原市の小高い山の上に現在計画中の100棟からなる山村型住宅。施工品質のさらなる向上と自然に恵まれた地域で建てられていくことを期待して特別賞とした。

今年も住宅の現地審査対象作品が多く、住宅の受賞7作品は、特別賞を受賞した「洗足池の家／MONOLITH」や「千葉・版築の家」のように挑戦型の作品が私のところに響く。鉄骨造3階建の「波板の家」、鉄筋コンクリート造の空間構成の巧みな「On the water」、木造在来構法の「岩国のアトリエ」、幹線道路に面する「光洞の家」などである。障害を乗り越えて新鮮な住まいづくりに専念する皆さんに敬意を表したい。

村松映一